

○水産試験場のイカナゴ調査

水産試験場では、イカナゴの資源管理に必要なデータを得るため、年間を通じて様々な調査を実施しています。カイトネット稚魚調査や試験びきなど、漁業者と共同で行う調査もあります。

愛知県水産試験場 イカナゴ調査・会議スケジュール

時期	内容	目的
5～12月	夏眠魚調査	夏眠中の親魚の密度、栄養状態、成熟を調
12～3月	海洋観測（水温・塩分・クロフィル量）	餌や生育環境を調べる
1月	親魚試験びき、成熟状況調査 ※◎	親魚漁（三重県）の解禁日を決定する
12～2月	ボンゴネット仔魚調査	仔魚の発生時期、成長、分布量を調べる
2月	カイトネット稚魚調査 ※	稚魚の成長、分布海域を調べる
2月	小規模試験びき ※	成長、分布海域、資源量を調べる
2月	漁業者、関係業者説明会 ※	これまでの調査結果と今漁期の予測を報告
2～3月	愛知・三重合同試験びき ※	成長、分布海域、資源量を調べる
2～3月	愛知・三重解禁日協議 ◎	解禁日を決定する
2～4月	漁獲サンプル測定	資源量を調べ、終漁時期を検討する
3～4月	終漁日協議 ◎	終漁日を決定する
4～5月	夏眠前親魚試験びき ※	夏眠前の親魚の分布、栄養状態を調べる

※；漁業者と共同で実施する、◎；漁業者が主催する



夏眠魚調査（海底の砂の中で夏眠中の親魚を採取し、その分布量や栄養状態を調べる）

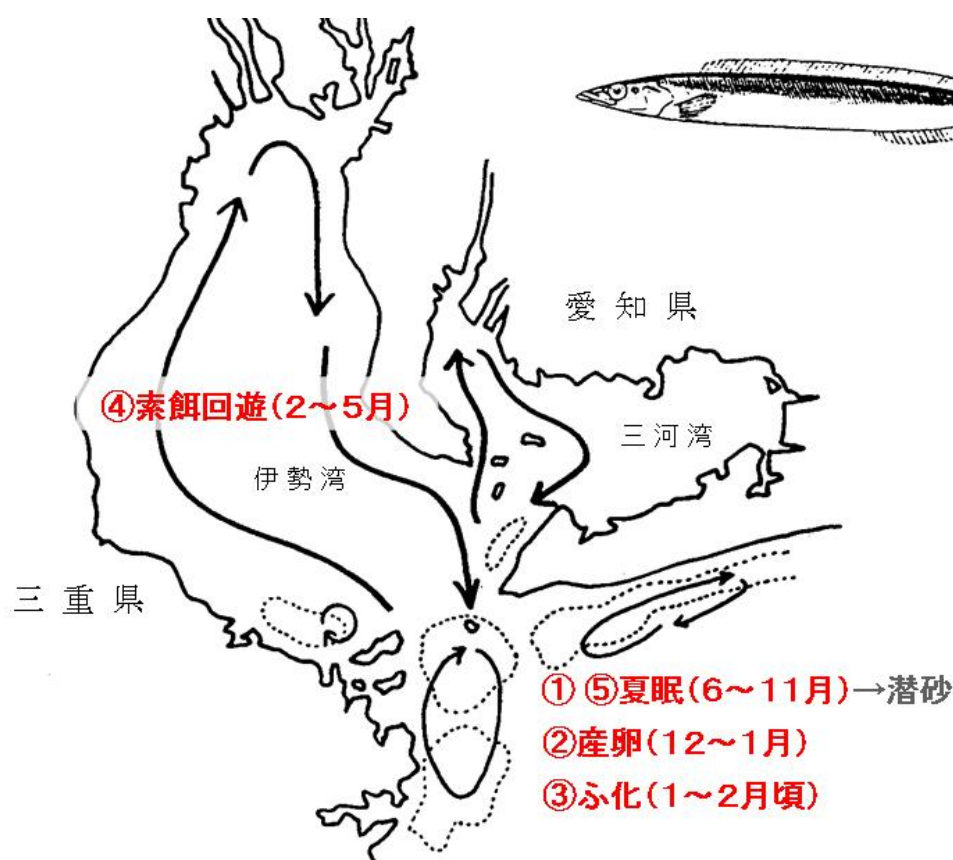


イカナゴ仔魚（ボンゴネットやカイトネットで採取する）



カイトネット調査（ボンゴネットでは採取しにくい成長した稚仔魚も採取できる）

○イカナゴの生態



点線は砂場で産卵や夏眠の場所、矢印は回遊を示す。

伊勢・三河湾で漁獲されるイカナゴは、伊勢・三河湾とその周辺海域で一生を過ごす、ひとつの独立した資源です。

12~1月に伊勢湾口でふ化した仔魚は、潮流によって湾内へ運ばれ、2~3月に全長3~4cmの稚魚となります。3~5月には全長が5cmを超えて、未成魚へと生長します。稚魚と未成魚は、ともに愛知・三重両県の二そう船びき網漁業の漁獲対象となり、稚魚はチリメン加工用に、未成魚は餌料用などに利用されます。

5~6月には再び湾外に移動し、11月頃まで夏眠します。夏眠中は、湾口付近の海底に潜砂し、ほとんど活動しないといわれています。夏眠期の終わりに成熟が始まり、12月には産卵がはじまります。産卵後の親魚も、1~2月には三重県の一部の漁業者によって漁獲対象となり、釜揚げ加工用などに利用されます。

通常、その年の漁獲尾数の90%以上は、稚魚期に漁獲されています。

○水産エコラベル認証の取得

愛知県のイカナゴ漁業は、水産エコラベル（マリン・エコラベル・ジャパン）の認証を取得しています（平成22年3月16日付け）。

水産エコラベルは、目印となるラベル（下図）を添付して、その水産物や製品が、「水産資源の管理」や「生態系への配慮」に取り組んでいる漁業によって漁獲されたものであることを証明する制度です。このラベルの付いた水産物や製品が、消費者に選ばれることで、『水産資源と環境に優しい漁業』を応援することをねらいとしています。



マリン・エコラベル・ジャパン認証マークと愛知県産イカナゴ製品

マリン・エコラベル・ジャパンの認証には、生産者を対象にした「生産段階認証」と加工業者などを対象にした「流通加工段階認証」の二種類が設けられています。

愛知県しらす・いかなご船びき網連合会は、当時、全国で4例目となる「生産段階認証」を取得しました。これは、解禁日・終漁日の設定や産卵親魚の保護など、これまで伊勢・三河湾のイカナゴ漁で実施してきた資源管理に対する取り組みが評価されたものです。

さらに、このイカナゴを加工・販売する愛知県の14社と静岡県の3社が、「流通加工段階認証」を取得しました。これら17社は、同連合会によって漁獲されたイカナゴが、他の水産物と混ざらないような管理体制の審査を受けて評価されました。

水産エコラベルの認証取得により、伊勢・三河湾におけるイカナゴ資源管理がこれまで以上に広く認知されるとともに、愛知の小女子（こうなご）が全国のより多くの消費者に注目されることが期待されます。